

## 発言通告表（一般質問）

平成30年6月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（13）	<p>1. 元気な高齢者の就労施策について</p> <p>本年3月、「ふじパワフル85計画V」が示されました。</p> <p>計画では、介護保険制度が平成12年の創設から18年が経過し、現在は介護が必要な高齢者の支えとして定着・発展してきた一方、2025年にはいわゆる団塊世代が75歳以上となるほか、2040年には、団塊ジュニア世代が65歳以上になるなど、人口の高齢化は確実に伸展し、特に後期高齢者が急増することが予測されています。</p> <p>また、本市においては、高齢化率は平成30年4月1日現在、26.8%に達し、市民の4人に1人以上が高齢者となり、2025年には29.8%、その後もさらに上昇が続いていくことが見込まれており、高齢化の急速な進行に伴い、地域社会では、高齢者をめぐるさまざまな問題が浮かび上がっています。</p> <p>ひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の増加や孤立化、認知症高齢者の増加、医療的ケアを必要とする重度要介護者の増加、介護する家族の負担増や介護離職の増加、介護職員の人材不足等の問題への対応が課題となっています。また、これらの課題に直面する中で、高齢者が可能な限り住みなれた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営んでいくためには、限りある社会資源を効率的かつ効果的に活用しながら、介護給付サービス等の充実を図るとともに、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を深化、推進していくことが重要です。</p> <p>今回策定されたふじパワフル85計画Vは、老人福祉法や介護保険法に基づき、急増する高齢者に対する施策と介護保険事業の円滑な実施を図る意味では、富士市として大変手厚い施策だと私は思います。しかし、この手厚い支援はこのまま高齢者が増加していく中で、社会保障費という財政への大きな負担になることは間違いないことだと思います。</p> <p>私は、この3年間、高齢者の増加に伴う諸問題について一般質問をいたしました。2025年問題は本当に今からスピードを上げて取り組まなければいけないと思いますので、今回も新たにスタートするふじパワフル85計画Vに示されている中から、高齢者が可能な限り住みなれた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営んでいただきたいという観点から、高齢者の就労支援について、課題を4つ挙げてみました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者がお荷物ではなく高齢者が社会を支えていく。社会保障の受け手ではなく、出し手になる社会づくり。</li> <li>・若い人たちの負担を軽くするために、働きたいと思っている高齢者はいる。</li> </ul>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（13）	<p>・人口減少というが高齢者は減るわけではないので、いつまでも元気で働ける環境づくりが必要ではないか。</p> <p>・2025年問題は、増税で切り抜けるのは大変難しいのではないか。</p> <p>介護給付サービスを受けないで日常生活を営んでいただくために、これらの課題に対し真剣に検討すべきと考え、以下質問いたします。</p> <p>一昨年2月定例会に海野議員より、シルバー人材センターの位置づけと役割について一般質問がありました。内容は①高齢者が急増しているのに会員数が横ばいなのはなぜか。②シルバー人材センターと定期的に課題を協議する場はあるのか。③発注業務に行政業務を加える洗い出しをしておかいか。④会員づくりのために新たな就業センターの開設に取り組むべきではないか。の4点についての質問だったと思います。その御回答はいただいたわけですが、2年を経過して現状はどのようになっているのでしょうか。</p> <p>(1) 関係機関と連携して、就業機会を確保することについて</p> <p>(2) シルバー人材センターとの協議の内容について</p> <p>(3) 市からの業務発注調査後の見直しについて</p> <p>(4) 新たな就業センター開設の検討結果について</p> <p>2. 高齢者等対応住宅とシルバーハウジングの現状について</p> <p>高齢者が自立して快適に生活することができる低所得者向け市営住宅として、いきいき高齢者ガイドにも御案内のとおり、高齢者等対応住宅とシルバーハウジングがあります。そこで現在の利用状況と今後の施策で増加する、低所得高齢者の住まいとして市営住宅をどのようにお考えかお聞きします。</p> <p>(1) 駿河台団地、上堀団地におけるシルバーハウジングの入居状況と運営状況はどのようになっていますか。</p> <p>(2) 2025年問題を踏まえ、新たに高齢者等対応住宅やシルバーハウジングの増床予定はありますか。</p> <p>(3) 空き家を利用した高齢者シェアハウスのような取り組みは考えていますか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
2	一条 義浩（16）	<p>1. 中核市移行の検討状況について</p> <p>さきの2月定例会、その後の全員協議会において、中核市移行に関する方針について、来年（平成31年）2月ごろに、移行表明・移行見送り・検討継続・検討中断のいずれかを決定していくとして、調査・検討が進められていく旨が示されました。</p> <p>しかし、現在に至るまで、漠然とした将来像が示されているのみであり、「こうした権限移譲により、このように市民サービスが向上する」といった具体的な根拠は明らかにされていません。</p> <p>それゆえに今もなお、中核市移行の是非について判断をする以前の状況にあると捉え、以下市当局の見解を伺います。</p> <p>(1) 庁内における検討状況についてお知らせください。</p> <p>(2) 県との協議の現況についてお知らせください。</p> <p>(3) プラス面の筆頭に掲げられている「ブランド力向上に伴う本市活性化への期待」について、特に経済に与える影響を好例とともにお示しください。</p> <p>(4) 本市は普通交付税交付団体としてのボーダーに位置する中、移行された場合、財政に厳しいシミュレーションが成り立つことは既に御承知おきのことと存じます。この点に対する認識と市民への説明をどのようにお考えかお示しください。</p> <p>(5) 「市民の皆様と議論・検討を本格化させていく」と示されていましたが、どのように御理解いただき、御意見を集約していくお考えかお示しください。</p> <p>2. その他の紙（雑紙）の分別回収について</p> <p>平成27年4月より、可燃ごみのさらなる削減を目指し、「その他の紙」については範囲が拡大され、従来の方法（紙袋での排出）に加え、資源物指定袋による回収が行われております。</p> <p>しかし、古紙の中でも、新聞紙、段ボール、牛乳パック、雑誌などと比較して、その他の紙については、なお一層の御理解を求めなければならない状況にあると考えます。</p> <p>ごみ処理基本計画2015-2024によると、本年度の市民1人1日当たりの焼却量の目標値は645グラムに設定しており、「目標まであと1人1日19グラムである」として、減量の協力をお願いしているところですが、その他の紙の混入量が仮に半分にまで減量（5割減）されれば、目標値は優に達成されます。</p> <p>その他の紙の分別行動を広く浸透、習慣化していただくための動機づけへとつながる周知の工夫が必要であると認識し、以下市当局の見解を伺います。</p> <p>(1) その他の紙の分別回収の進展状況についてお知らせください。</p> <p>(2) 現況を捉え、今後の対応についてお示しください。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
3	松本 貞彦（32）	<p>1. 本格的な富士市史編さんの取り組みについて  富士市制施行50周年の資料編及び通史編が発刊された。  これを期に古代から現在に至る本格的な市史の編さんをすべきと考える。組織を立ち上げ市史編さんを進めるべきと思うがどうか。</p> <p>2. ごみの減量化について  ごみの減量化は喫緊の課題である。食品ロスを減らすことは本市のごみ減量に直結するものと考え、  (1) 本市の食品ロスの現状をどう捉えているか。  (2) これまでの食品ロス削減の取り組みについて  (3) 今後の食品ロス全体の削減に向けてどのような取り組みをしようとしているのか。  (4) 市民、事業者を巻き込んだ、食べ残し、食べ切り運動を全市に広げるべきと思うがどうか。</p> <p>3. 電線の地中化（無電柱化）について  無電柱化の推進に関する法律が成立した今、なお一層の整備促進が求められる。  今後、本市の方針は立てられているのか、実施計画はあるのか、取り組みについて伺いたい。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（２）	<p>1. 田子の浦港一帯を観光地富士の要、富士山観光の「はじまりの地」となる魅力ある拠点として形成し、さらなるにぎわいづくりを推進していくことについて</p> <p>市民の皆様から、本市は観光がおこなわれている、観光に力を入れていないのでは、といった指摘を受ける。</p> <p>確かに、本市は長年にわたり工業都市として発展してきたため、観光振興に関しては二の次になってきたということは否めないと思うが、そもそも、海外・全国から観光客が訪れ滞在して楽しめるような、温泉地でもなく、歴史的まちなみやメジャーな観光資源が存在しているわけでもないといった現実もある。</p> <p>そのような中でも、富士市観光基本計画（平成27年3月策定）に基づき、富士山観光交流ビューロー等と連携し、本市の特性を生かした誘客諸施策を推進しており、シティプロモーション活動なども相まって、来訪者は増加傾向にある。特に、アルティメット等の全国規模のイベントなどによる集客、各観光スポットにおける市民や近隣都市住民等の憩いの場・レクリエーションの場としての集客など、一定の成果が上がっていると評価できる。</p> <p>しかし、海外・全国から多くの観光客が訪れ滞在する、いわゆる観光地富士として認知され、観光消費の増大、新たな産業創出、雇用の拡大などの経済効果を生み出すまでには至っていないのが現状ではないだろうか。</p> <p>本市が本格的に観光地富士を目指すのであれば、本市ならではの資源・素材が生きるように手を加え、付加価値を生み出し、半日・1日滞在して楽しめるような場所を1つでも2つでもつくっていくことが必要であると考えます。</p> <p>そして、その一番の候補地が、G I登録された田子の浦しらす、ふじのくに田子の浦みなと公園、富士山登山ルート3776の起点、海拔ゼロメートルから富士山頂までの眺望など、本市ならではの魅力が満載で、東海道新幹線新富士駅、東海道本線吉原駅、国道1号に近く、高速道路ICからも容易にアクセスできる田子の浦港一帯である。</p> <p>一方、観光振興という視点で田子の浦港の現状を見てみると、富士市観光基本計画や田子の浦港振興ビジョンに基づき、にぎわいづくりに関する各種施策が実施されているが、その多くがソフト施策で、一過性のにぎわいづくりにとどまっており、継続性という点でも課題があるといえる。</p> <p>また、本市の立場からすれば、田子の浦港の管理は静岡県であり、関係する企業や組織等も多く、ハード整備や各種の施策を実施しようとしても、さまざまな制約や各主体との調整、想定される津波被害への対応など困難な課題が多く、思うように進まないといったジレンマもあると推測できる。</p> <p>しかし、そうした各種課題を克服し、田子の浦港一帯を長時間滞在して楽しめるような観光地富士の要、富士山観光の</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（２）	<p>「はじまりの地」となる魅力ある拠点として形成し、さらなるにぎわいづくりを強力に推進していくことを求め、以下を質問する。</p> <p>(1) 田子の浦港周辺のにぎわいづくりについては、富士市観光基本計画の観光インフラの整備にも位置づけられているが、本市の観光振興という視点から、田子の浦港一帯を富士山登山ルート3776の起点にふさわしく、市内の他の観光スポットや宿泊施設等への波及効果をもたらし、さらには富士山観光の「はじまりの地」となるよう、長時間滞在できる魅力ある観光拠点として形成していくことについて、市当局の見解を伺う。</p> <p>(2) 富士市観光基本計画や田子の浦港振興ビジョンに掲げられている、以下の施策、取り組み（類似も含む）について伺う。</p> <p>① 富士山しらす街道の活性化についての取り組み状況と今後の方向性について</p> <p>② 田子の浦港周辺の水産、食を中心としたにぎわい機能の充実のため、漁協食堂のリニューアルや漁協敷地内での販売施設の拡充、駐車場の増設、G I 登録の田子の浦しらすのPRについて</p> <p>③ フェリー乗り場跡地とふじのくに田子の浦みなと公園間のプロムナード化について</p> <p>④ 太平洋岸自転車道の富士海岸部における、田子の浦港周辺のネットワーク化の進捗について</p> <p>⑤ 市と地元の思いが一致し、協働で実施された田子の浦みなとマルシェの評価と今後の展開について</p> <p>(3) 今年度予算化されている水陸両用バス体験事業についての概要と今後の見通しについて伺う。</p> <p>(4) 地元主体で毎年実施している田子浦みなと祭りについては、富士まつりやかりがね祭り、ふじかわ夏まつり同様、花火等を楽しみに市内外から多くの人でにぎわい、本市の観光振興に大きく寄与するイベントになっていると思うが、市当局の観光面での評価と今後のかかわり方について伺う。</p> <p>(5) 富士市観光基本計画や田子の浦港振興ビジョンを踏まえ、具体的な施策を盛り込んだ（仮称）田子の浦港にぎわいづくりアクションプラン等を早急に策定し、それに基づき計画的かつ確実に実施していくことを求めるがいかがか。</p> <p>(6) 田子の浦港の観光拠点としての形成及び各種施策については、平成32年度で終了する第五次富士市総合計画後期計画を引き継ぐ富士市の最上位計画である、第六次富士市総合計画に明確に位置づけるべきであると考えているがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長